

「国立家庭医学臨床教育センター医療機材整備計画」 引渡し式

5月31日、「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により国立家庭医学臨床教育センターに整備された医療機材の引渡し式が行われました。引渡し式には、タジキスタンを訪問中の藤井比早之外務副大臣、古田駐タジキスタン大使、マノノフ保健社会保護省改革及び初期医療・衛生支援局長、ラジャブゾダセンター長らが出席しました。

本計画で我が国政府が102,480米ドルを国立家庭医学臨床教育センターに供与し、新しい医療機材が整備されたことにより、より質の高い診察が可能となるとともに、市民の医療サービスへのアクセスも改善されました。

藤井副大臣は引渡し式の挨拶で、保健・医療分野は日・タジキスタン二国間協力において特に重要な分野の一つであり、この支援がタジキスタンの持続可能な発展につながり、日本とタジキスタンの友好が強化されることを願っていると述べました。これに対して、マノノフ局長からは、日本政府及び日本国民からの支援に対して謝意が表明されました。

タジキスタンでは、1996年から今日まで、草の根・人間の安全保障無償資金協力として合計468件、総額約3,890万ドルに上るプロジェクトが実施されています。

